

大分港 港湾脱炭素化推進計画（案） 【概要版】

令和6年 12月
大分県（大分港港湾管理者）

1. 計画の目的

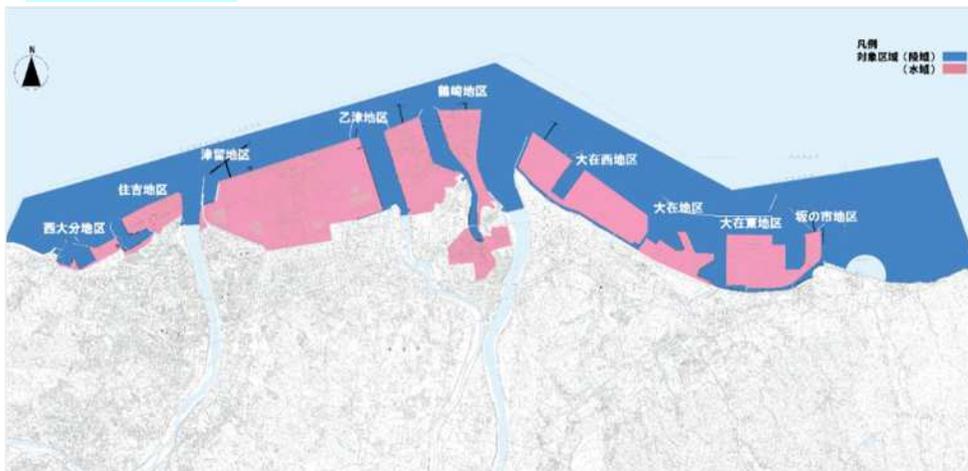
港湾法第50条の2の規定に基づく港湾脱炭素化推進計画として、大分港港湾地域においてカーボンニュートラルポート形成を推進するための具体的な取組について定め、水素等の大量・安定・安価な輸入・貯蔵等を可能とする受入環境の整備や、エネルギー利用の地域最適化や脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにすることを目指す。

2. 脱炭素化の促進に資する基本的な方針

○大分港の概要

- ・エネルギー・資源の安定供給を支える拠点
(海外から直接輸入の役割)
- ・地域経済を支える重要な産業拠点
- ・エネルギー消費の大きい街区が臨海部に近接
(人口約47万人の大分市)
- ・「グリーン・コンビナートおおいた」の形成

○対象範囲



○取組方針

- I 次世代エネルギーのサプライチェーン構築
- II 港湾立地企業における次世代エネルギー等の活用促進
- III 公共ターミナルにおける次世代エネルギーの活用や港湾機能の高度化

取組み方針のイメージ図



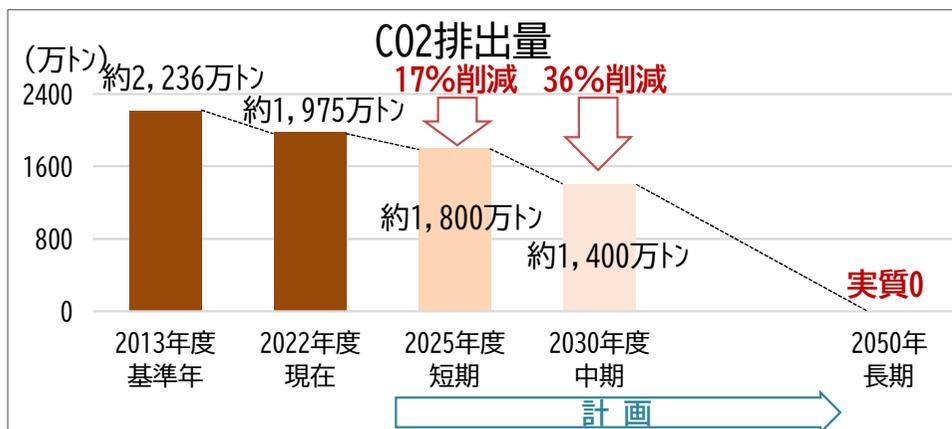
3. 脱炭素化推進計画の目標

○港湾脱炭素化推進計画の目標

KPI (重要達成度指標)	具体的な数値目標		
	短期 (2025年度)	中期 (2030年度)	長期 (2050年度)
KPI 1 CO2排出量 (2013年2,236万トン)	約1,800万トン/年 (2013年度比17%削減)	約1,400万トン/年 (2013年度比36%削減)	実質0トン/年
KPI 2 港湾における 水素等の取扱貨物量	-	約22万トン/年 (水素換算)	約206万トン/年 (水素換算)

○温室効果ガスの排出量、吸収量

区分	対象	CO2排出量	
		2013年度	2021年度
①公共ターミナル内	コンテナ、RORO、 旅客、その他	0.18万トン	0.24万トン
②公共ターミナル出入車両 ・船舶	コンテナ、RORO、 旅客、その他	3.3万トン	4.9万トン
③公共ターミナル外	専用ターミナル 他	2,233万トン	1,970万トン
CO2吸収量			
	港湾緑地	0.1万トン	0.1万トン
計 (①~③)		2,236万トン	1,975万トン



4. 計画の達成状況の評価に関する事項

○実施体制



○評価の手法

港湾脱炭素化促進事業の進捗状況に加え、協議会参加企業の燃料・電気の使用量の実績を集計し、CO2排出量の削減量を把握する。

- ・目標年次では**目標と実績値を比較**
- ・目標年次以外では、実績値が目標年次に向けて**到達可能か否かを評価**

5. 計画期間

計画期間は2050年までとし、情勢変化、技術進展等を踏まえ、適時適切に見直しを行う。